

關東及阪神地方未曾有の豪雨に就て

1. 關東地方の豪雨

六月二十八日より三十日に亘り關東地方を襲つた雨は各地方測候所開設以來の未曾有の豪雨にして從來の記録を遙に突破した。

颶風の進路は房總沖を通過し北東に前進した爲め、内地は其の進路内にあるを免れたのであるが、颶風に不連續線が伴つて颶風進路の西側が豫想外の豪雨を齎したことは今回の特有なる現象であつた。

降雨量の最も多かつた區域は東京を中心として西は東海道線の沼津、東は常磐線の水戸を結ぶ細長き線が最も多く400耗以上の量を示しこれを中心として次第に外側に遞減し200耗の線は濱松、甲府、熊ヶ谷、宇都宮の各附近を結ぶ線、100耗の線は名古屋、前橋、福島、仙臺を結ぶ線である、従つて山間部の降雨量は少きを以て大なる河川の出水は比較的少きに反し、豪雨地方の小川氾濫は極めて猛烈を極めたことが今回の特有の現象である。

三十日午後颶風が房總沖を北東に通過後は天候一時回復したが小笠原島と、千島地方の高氣壓の爲めに内地は依然として氣壓の谷が出来て不連續線が発生し、雨を降らして二日には關東南部は強雨となり二日午前六時より

三日午前六時迄の二十四時間に沼津では164耗、横濱では124耗の豪雨があつた。

2. 阪神地方の豪雨

四日朝瀬戸内海の東部に新しい低氣壓が發生し、不連續線が北陸道より此の低氣壓を貫いて四國に達してゐる、此の間に大雨の區域は西及北に移動し、岐阜縣下より近畿、四國方面が可成強く降つた。

當時の氣壓配置は低氣壓が秋田沖と九州にあり、兩者を連ねる不連續線が能登半島、福岡、京都、大阪を経て瀬戸内海より九州中部を西に貫きこれが爲め京都、大阪、神戸の所謂阪神地方と四國は最も多量の降雨あり、就中神戸の如きは未曾有の大豪雨があつた。

七月一日より六日迄の降雨量の分布を圖示せば下圖の通りで、この水害の特異性は豪雨に依り土砂の流出、其の他漂流物が鐵道線路及道路等を埋没し其の復舊を困難ならしめたことである。

